

全国障害者問題研究会第 50 回全国大会(京都)

全障研第 50 回全国大会(京都)は 3000 名の参加で全体会を終了しました。
全体会の冒頭、参加者で黙祷しました。

荒川智全国委員長の主催者あいさつです。

挨拶に先だって、先月、神奈川県相模原市の障害者施設で起こった悲惨な事件の被害者のご冥福を祈って、黙祷を捧げたいと思います。起立できる方は、ご起立ください。

黙祷！

ありがとうございました。ご着席ください。

この事件については、報道などで様々に取り上げられていますが、はっきりしていることは、どんなに障害の重い人でもそのかけがえのない命は決して奪われてはならないこと、そして加害者が語っていたとされる「障害者はいらない」「安楽死させるべきだ」という理屈は、決して正当化されてはならないということです。

私たち全障研は、50 年にわたる実践と研究を通して、障害の重い人でもその人ならではの願いや要求を持っていることを確かめ合い、そこに学ぶことで、実践を豊かにし、社会の在り方を展望してきました。

この事件を機に、こうした観点から障害者福祉、社会保障のあり方をしっかりと見据えていき、私たちの取り組みを、いっそう強めていかなければならないことを痛感します。

さて、全障研は、この大会から来年鹿児島で開催される第 51 回大会までの 1 年間を、結成 50 周年と位置づけています。この半世紀、全障研は発達保障の理念を掲げ、障害のある子ども、青年、成人の生活、学習、労働、医療などの諸権利を保障するために、研究運動を進めてきました。京都での開催は 4 回目となりますが、これまでを振り返ると、いずれも大きな節目となる時期でした。

では、今年はどうでしょうか。政治をみれば憲法改正に向けた動きが強まり、社会保障や教育の公的責任が縮小され、競争原理と自己責任が押しつけられてきています。TPP が締結されれば、国民生活にさらに深刻な影響を及ぼすことでしょう。

全障研が提唱する発達保障とは、単に人間の能力や技能を高めれば良いという狭隘な考えではありません。豊かな文化・自然・人(集団)とのふれあいを通じた学習・労働・余暇そして社会参加によって、人間らしい生活・人生を切り拓いていくことは、すべての人の権利であり、それを保障する社会的な制度・施策を実現していく必要があります。そのための理論と実践の土台となるのが発達保障の理念なのです。それは当然、平和と人権に支えられるものであり、戦争や抑圧、競争原理や自己責任論とは相容れないものです。

今年、障害者差別解消法が施行されました。不十分さも指摘されています。差別や排除のないインクルーシブな社会をめざす真の取り組みは、平和を守り築く取り組みと一体でなければなりません。そして発達保障の取り組みもそこにしっかりと合流していきたいと思っております。

記念すべき第50回全国大会を京都で開催することができましたことを、ここに参加されたすべてのみなさんと喜びたいと思っております。そして、この大会を支える京都の準備委員会のみなさん、協賛・後援をいただいた方々に厚く御礼を申し上げます。

全障研結成50周年が平和と発達保障の取り組みの新たなスタートとなること、そしてこの大会がまさにその新たな一歩とすることを期待し、開会のご挨拶といたします。

全国障害者問題研究会

採択された全国障害者問題研究会の全国大会アピールです 大会アピール 国民のみなさんへ

「戦争をする国」への地ならしを進めようとしている今、国民のいのちと権利を守るとりくみと、障害のある人たちの発達と権利を保障しようとする研究運動がより固く結ばれる必要があります。7月の参議院選挙では、改憲勢力が3分の2を占める事態となりました。選挙後、沖縄県の高江では基地反対の人びとの抵抗を押しつぶしヘリパッド建設が強行されています。国民のねがいと国家の意思に反するものであれば、あらゆる手段を講じて人権を徹底的に蹂躪・制約してはばからない国家の暴力を断じて許すことはできません。

一方、昨年夏以来、わたしたち一人ひとりが主権者として社会のさまざまな場所から声をあげ続けることで、この国の民主主義を大きく育ててきました。そうしたなか、「私たち抜きに、わたしたちのことは決めないで」という声は、障害のある人たちばかりか、個人の尊厳を守り、平和と民主主義を希求する広範な人びとのねがいにも貫かれて、わたしたちの社会を発展させていく原動力になっています。

2016年8月6日、7日の2日間、第50回全国大会を、京都の地で開催しました。「プラスワンあなたと次の一歩を」をテーマに、217本のレポートが寄せられ、3000人がつどい全国各地の実践と運動の成果を学び合い、語り合い、交流することができました。半世紀をかけて、一人のねがいをみんなのねがいへとつないできた「一歩」「一歩」の足どりを確かめることが、「次の一歩」を見通す大きな力になることを学びました。

わたしたちの実践と研究は、どんなに障害の重い人であっても発達へのねがいを持っていることを確かめ合ってきました。そのねがいに学ぶことで、すべての人が幸福のうちに生きられる社会への道すじを明らかにしてきました。

大会直前の 7 月 26 日、神奈川県相模原の障害者施設で悲惨な事件が起こりました。わたしたちは誰とも取り替えのきかない存在です。人間の尊厳が大切にされる社会を基礎に、今こそ一人ひとりのいのちを輝かせるとりくみをすすめていきましょう。

憲法公布 70 年の節目を迎え、わたしたちは、発達へのねがいを紡ぎ、ともに歩んできた 50 年の歴史に確信をもち、平和と民主主義、発達保障の道へのさらなる一歩をともに踏み出しましょう。

2016 年 8 月 7 日 全国障害者問題研究会第 50 回全国大会(京都)